

# 第1回千葉市新基本計画審議会 議事要旨

1 日 時 令和3年10月14日（木）10時00分～12時00分

2 場 所 オークラ千葉ホテル 3階 「エリーゼ」  
千葉市中央区中央港1-13-3

3 参加者 《委員》37名（五十音順）

秋田 典子委員、秋元 裕子委員、浅野 幸子委員、石河 勲委員、市田 誠委員、  
市橋 民子委員、岩崎 久美子委員、梅澤 孝之委員、江波戸 正子委員、  
大森 康雄委員、小川 順子委員、柿沼 靖委員、加藤 康幸委員、鏑木 憲子委員、  
菊地 端夫委員、近藤 利砂委員、斎藤 博明委員、斉藤 浩司委員、貞広 斎子委員、  
下河原 忠道委員、仙波 慶子委員、添田 智恵委員、高梨 園子委員、  
高山 功一委員、角田 愛子委員、轟 朝幸委員、長岡 正明委員、中島 陽一委員、  
成田 智子委員、林 暁甫委員、細田 美和子委員、松永 哲也委員、  
森川 博之委員、若狭 健委員、和田 勝紀委員、渡部 茂樹委員、渡邊 真由委員  
（欠席者 倉阪 秀史委員、島田 利美委員、鈴木 雅之委員）

《市出席者》6名

神谷市長、峯村総務局長、神崎総合政策局長、米満財政局長、堺総合政策部長、  
濤岡政策企画課長

## 4 議 題

- (1) 会長及び副会長の選任について
- (2) 千葉市基本計画（原案）の諮問について
- (3) 部会の設置及び部会委員の選任について
- (4) 千葉市基本計画（原案）総論について
- (5) その他

## 5 議事概要

- (1) 会長及び副会長の選任について  
委員の互選により、会長に轟委員、副会長に長岡委員が選任された。
- (2) 千葉市基本計画（原案）の諮問について  
神谷市長から轟会長に千葉市基本計画（原案）についての諮問書を手交した。
- (3) 部会の設置及び部会委員の選任について  
・部会の設置案について事務局から説明し、事務局案のとおり2つの部会設置が了承された。

- ・部会構成員案について事務局から説明し、事務局案のとおり了承された。
- また、第1部会長に轟委員、第2部会長に岩崎委員を推薦し、了承された。

(4) 千葉市基本計画（原案）及び総論第1章～第3章について

千葉市基本計画（原案）の概要について事務局から説明し、質疑が行われた。

(5) その他

- ・審議会の開催予定等、部会審議の傍聴及び事前意見の提出について、事務局から説明した。
- ・議事録の確定方法について事務局から説明し、了承された。

## 6 会議経過

～以下、議事要旨～

### 市長挨拶

（神谷市長）千葉市新基本計画審議会の開催にあたり、挨拶を行った。

### 議題（1）会長及び副会長の選任

菊地委員より轟委員を会長として推薦され、異議なく選任された。

轟会長が長岡委員を副会長に指名した。

### 議題（2）千葉市基本計画（原案）の諮問

神谷市長が諮問文を読み上げ、轟会長に手交した。

### 議題（3）部会の設置及び部会委員の選任

千葉市基本計画（原案）分野別計画を審議する第1部会及び第2部会が設置された。

会長により、第1部会長に轟委員、第2部会長に岩崎委員が指名された。

### 議題（4）千葉市基本計画（原案）総論

（事務局）「千葉市基本計画（原案）」の概要及び委員からの事前意見について、資料④及び資料5-1、5-2もとに、説明を行った。

<意見交換>

#### 【1章 はじめに】

菊地委員

総論については概ね賛成ですが、計画の名称について、今回審議している計画が「千葉市基本計画」、現行の計画が「千葉市新基本計画」となっており、少し分かりにくいところがあります。

現行の千葉市新基本計画に関して、政策評価が行われているところと思います。進行管理についても記載がありますが、このような総合計画では過去の計画を見直し、評価をして、総論として何かあれば次の計画に反映していく必要があると思います。

そのため、現行計画の評価を踏まえたものであるというつながりについて、記載が必要ではないかと思います。

岩崎委員

総論3頁の策定の趣旨について、本市の「これからの100年を見据えた次なるステージの幕開け期の計画として、市民はもとより、団体・企業・大学等・行政など多様な主体が一層連携し、みんなが共有できる未来への指針」という文面が、策定の趣旨を高らかにうたうところだと思います。先ほどの説明では、この計画の趣旨というのは、市民の中で共有ビジョンを持つというものでした。

そのため、この3行の順番としては、まず、共有できるビジョンとして計画を策定し、次に、それぞれのビジョンに基づいて多様な主体が一層連携するという順番では

ないかと思しますので、そちらを訂正していただければもっと趣旨が伝わるのではないのでしょうか。要は、連携する前に共有があるのではないかという趣旨です。

浅野委員

前向きに基本計画を全体として策定していく、そういう空気感が大事だと思うのですが、やはりこれからの100年は厳しい状況が予想されます。

SDGsと言っている以上、だれ一人残さないというメッセージは、最初のところで入れておくべきかと思えます。また、多様な主体で連携をうたうには、人々の暮らし、価値観や多様性ということをしかりと私たちが認識していかないと、結局、全体として良い計画とならない、実効性のある計画とならないような感じがしますので、そうした要素というのも検討していただければと思いました。

堺総合政策部長

貴重なご意見ありがとうございます。

それぞれ、そのとおりだと思うところがございます。

事前にいただいております、人口減少の部分、あるいは総合計画と個別部門計画との連携との部分もしっかり対応していきたいと考えております。また、この場で頂戴しました、菊地委員からの政策評価の関係ですが、具体的には3年間の実施計画の終了時点で評価を行っておりまして、今年度から来年度において第3次の実施計画の評価を行うところです。

評価の時期と計画の策定期間が前後してしましますが、評価の活用・反映についてはもう少し工夫したいと考えております。

岩崎委員からいただきました共有と連携の順序ということについて、文章の精査をさせていただきたいと思えます。

浅野委員からいただきました、厳しい時代の中でのSDGs、あるいは多様性については、計画を立案する段階から同様の考えの下でスタートしており、第4章でそのような記載をしております。ただ、ご指摘はそのとおりだと思いますので、ご指摘をフィードバックさせるよう対応してまいりたいと思えます。

## 【第2章 千葉市の概況】

松永委員

第1章、第3章とも関係しますが、私どもは県内唯一のシンクタンクであり、色々な自治体の総合計画や基本計画の策定支援をしておりますので、その観点から2点ご指摘申し上げます。

1点目は、千葉市の位置づけですが、原案の中では県内の位置付けが明確に書かれております。一つは県内の南部と東部から人口や経済の受け皿という位置づけとして、ちば共創都市圏という言葉を使っておりますが、これは今まで連携していた四街道市あるいは市原市といった南部、東部との連携を想定されているものと想像しています。

一方、他の首都圏の県庁所在市の傾向を見ますと、首都圏の中でのさいたま市など、そのような視点から書かれているのですが、今回の千葉市の場合は首都圏の中で千葉市をどう位置づけるのかがなされていないと思えます。人口が減少するのかもしれませんが、一方で、コロナ禍の中で千葉市へのテレワーク、あるいは移住という形で転入してくる住民の方がいらっしゃいますので、これは一つのチャンスになると思えます。現状は、さいたま市や横浜市のエconomic規模とか、人口面でも差が開いている状況にあります。首都圏の中での千葉市をどう位置づけるのかという、そういう視点を盛り込んだほうが良いのではないかというのが一つです。

2点目は、部会の中で話すことかもしれませんが、基本計画の中での目玉をもう少しはっきりさせたほうが良いと思います。原案が非常によくまとまっていて事務局のご苦勞が覗えますが、目玉的なもの、尖った部分がない気がします。

例えば、国家戦略特区の使い方、それを単なるAIや自動運転の実証実験の場とするのか、あるいは産業振興の面から発想するのか、または雇用の場や新産業の場として位置づけるのかなど、そういった尖った部分を盛り込む必要があるのではないかと考えているところです。

林委員

千葉市の特性のところを読ませていただくと、総花的になっており、空間的な特徴は明記されていますが、市民の顔が見えてこないところがあったいなと思っています。本日の審議会に公募の市民委員が参画されていますが、市をどのようにしていきたいかということに対して意識を持たれている方が非常に多いと思います。また、市内を見ても大学があり、国際性というところを見ても、色々な特徴を持った方々がいらっしゃると思います。

今後の都市政策において、どういう人々が住んでいるのか、どういう人が何にチャレンジしているのか、というところをもっとしっかりと見据えていくことによって、そういった人々に魅力を感じる人がもっと出てくる、また、こういったチャレンジが許されるんだということを考える方が増えてくるのではないかと思います。

東京への通勤や、縄文時代からの継続も大変大事なことだと思うのですが、せっかく、千葉市が市民の方も含めてこの計画を作るということであれば、5つのまちの宝という特徴に市民の多様性といった市民の顔が見える形にしていただければ良いのではないかと提議させていただきます。

近藤委員

総論12頁の中に千葉市の歩みについて、12番と13番が時代的に逆になっています。それまでは時代に沿って記載されているので、修正いただければと思います。

轟会長

先ほど目玉の話もありましたが、他の都市と競争、比較するわけではないですが、例えば、さいたま市と比べると海に面しているということが非常に有利とっております。海があることで大きな産業が根付いてきており、自然環境でも海からの恩恵を受けていると思います。

神奈川県川崎市にも海がありますが、海浜がなく、ほとんど埋め立てられて工場地帯になっていますので、海辺があるのが千葉の特徴かなと思っています。

ぜひ、そういった自然の中にも海辺というのを少し強調し、海辺、海浜というのをどこかに書き込んでもらえればありがたいです。

堺総合政策部長

ご意見ありがとうございます。

松永委員からいただきました首都圏の位置づけについて、また、轟会長からも指摘いただきましたが、首都圏の関係を見ますと、地方創生の出発点となる東京都との関係が中心でございまして、先ず、そのところの書きぶりが3章のメインとなっております。

ご指摘のとおり、海を広範囲に有することにより、他都市とどういう違いが出ているのか、扱いをどうするのか、どういう活用があるのか検討していきたいと思っています。

また、計画の目玉については、三層構造のうちの中長期的な計画であり、具体的な部分につきましては、基本計画の範囲内での整理ということになりますが、我々としては、4章の基本方針の中で特性を踏まえた戦略的視点、考え方というものを示しているつもりであります。趣旨とは言え、こういったことが書けるのかについては、

今後の議論によって最大限、総論にフィードバックすることを含めて考えてまいります。

次に、林委員からご指摘いただきました市民の多様性、顔の見える形についてご提案がございましたが、これまでの市民参加でいただいたような話というのは、例えば、色々な市民のご理解を深めていただくためのツールを使ってご紹介できればという思いがありますので、実際に活動されている方々の顔が見えるよう、例えば、来年度以降の PR 活動など、今後整理していきたいと思っております。

### 【第3章 現在の千葉市を取り巻く状況と2040年を展望した重要な社会変化】

石河委員

生産年齢人口の減少についてですが、総論26頁でこの問題は分かるのですが、生産年齢人口の減少は千葉市だけの問題ではないため、何もせずに減っているからといって、政策を打たないわけにはいかないと思います。

その中で、改革として、減った部分を IT、IoT によって影響が出ないように進めていくとありますが、私が思うに、すべてをテクノロジーの活用で補うのではなく、全国的に生産年齢人口が減っていく中で、千葉市として、生産年齢人口を維持していくような政策、つまり、千葉市で言うならば幕張新都心など昼間に働けるような場所を活性化することによって、今のうちから新たな事業誘致をしていくというところをもう少し前面に出して、雇用を増大させることによって人口減少をさせないで維持していくような政策ということが書かれていると非常にありがたいと思っています。

特に千葉市は、県庁所在市で市民の58%の方が千葉市で働いているという実状がありますので、更に生産性を向上することにより、人口増加につながるのではないかと考えているので、是非ご検討していただければと思います。

森川委員

重要な社会変化に関してですが、ご指摘いただいた検討に加えて、不確実性が非常に高まってきているということが非常に大きいと思っております。千葉市だけでなく、国、霞ヶ関の議論でもここが一番大きな問題で、今までの右肩上がりの成長には閉塞感が出ており、例えば、経産省の方は、これからはアジャイルで行かないといけなれないと言いはじめしております。報告書も書いてありますが、もう皆様ご案内のとおり、予見可能性がぐんと減ってきている。本当に今までどおりのルールで考えると、計画の実現が、どうしても難しくなるというようなところ です。

計画の進行についても、PDCA や OODA、あとはアジャイルで進めていく、そういうような意識をもって進めていくことが重要だと思います。これからの取組みをカチッと計画して着実にこなしていくことは、分野によっては必要なことかもしれませんが、それ以外の分野では、これからは不確実性が高まっているという、そういう視点も大事かなと思っております。

轟会長

大変重要なご指摘をいただきました。

総論34頁に新型コロナウイルス感染症について書いてありますが、コロナだけでなく冒頭にも市長からお話がありましたが、災害やテクノロジーもどういうふうに変化が起きていくのか、先が読めません。こういったところの不確実性の捉え方、非常に難しい局面に来ているなど、私自身感じております。

既にいただいているご意見に重要な部分がありますが、人口減少でコンパクトへの対応という方向性が必要になってくると思っております。このあたりは千葉市だけで考えてはいけなれないと思っております。総論19頁のように、周辺の都市からの移住者を千葉市だけに集めると周辺が衰退するので、周辺を支えていかないといずれ

千葉市も衰退に向かってしまうという気がしており、移住者が増えるのは嬉しい反面、少し気を付けなければいけないのかなと思っていたところです。

この千葉市が周辺市の中心的な都市であるという認識を、持っていただきたいと思っておりますので、計画に書いてあるのですが、もう少し強調してもよいのかなと思います。

これらを踏まえて、コンパクトシティについては、周辺も含めてコンパクトとネットワークをしっかりとしていくというところも、政策としては必要になってくると思っております。

林委員

事前に意見を送らせていただいたこともあるので、一言申し上げます。

外国人の対応につきまして、いくつかご提案させていただきました。

今お話がありましたように、これから人口減少に入っていくこと自体、どこの市町村でも避けられないという中で、今後の改革によっては益々、国内の中にも外国人が増えていくと思います。

千葉市の特徴として基本計画に国際都市としての側面を掲げているので、外国籍を持っている方々がどんな活躍ができるのかであったり、千葉市が本当に選ばれる都市になることによって、またひとつ、新しい魅力が創出されたりするなど、多様性に富んだ都市になるのではないかと考えています。

例えば、皆さんご承知かも知れませんが、江戸川区ではインド出身の方が初めて区議会議員になるという先例もありますので、これから、もしかしたら国内の中でも優秀なVIPの外国の方々が居住したい都市のひとつにもっていくという形もありますので、全国に住んでいる外国人の方に、ここで生活してもらうことに関して真剣に考える政策を考えてもいいのではないかと思います。

中島委員

この計画の中では数値的目標があまり出てきません。千葉市は昼夜間人口の比率が周辺で一番多いとのことですが、それではこれをどうしていくのかを示す必要があると思いました。私としては、1以上を目標数値にすれば、首都圏としては尖った話になると思います。人口問題に関しても、どこまで増やすのか、どのように解決していくのかを決めていく場合に、目標値が必要かなと思います。

この後の個別計画となると3年周期となりますので、個別計画ではなく、10年、20年の計画の中でも定義しておくべきであると思います。

轟会長

目標を定めるのも非常に重要なことであると思います。

先ほどもありましたが、先が見通せない、不確実性が増す中で、どう目標を定めるのか非常に難しい話だと思います。

関連して私の意見ですが、最近悩んでいるのは、どうしても計画というのは、課題に対して何とかしなければという追従型になりがちですが、先が見えない中では夢を追いかけるような方法もあるのではないかと、このように思っております。

10年、20年先というと本当に夢の世界になる可能性があり、夢を追いかけるような議論があってもいいのかなと思っております。

若狭委員

先ほど会長が仰った、夢や希望を語るという取組みをワールドカフェや千葉市未来研究所などに私が参加させていただいて、一般市民、千葉市の方と語り合うということがありました。数としては非常に小さい50人、100人ぐらいの取組みでしたが、こういう取組みをもっと広げていって、広げていった場に出てきた思いや情報、そういうものに気軽にアクセスできるような、何か情報の源のようなものがあると、市民

としても常に千葉市の動向を気にするようになるのではないかと常々思っております。この計画にもそういったテーマがあると、すごく嬉しいと思っております。

渡邊委員

私のほうからは、事前に提出させていただいた意見の報告をさせていただきます。

総論37、38頁のSDGsの内容について、一通り読ませていただいたのですが、どの自治体の基本計画にも当てはまる、一般的な内容になっていると感じましたので、千葉市らしさを出すために、例えば、具体的な施策を挙げて、それが章のどこに対応しているかというものを示せると、それが千葉市らしさを出した基本計画になるのではないかと感じました。

轟会長

SDGs自体も本当に幅広いので、この中で千葉市が何を重視するか、これまでの取組みの中で遅れているものを取り戻すというのがありますし、特性に合わせて、もっともっと伸ばしていこうと、こういうやり方もあるかと思えます。

角田委員

3章まではあまり意見、質問はなかったのですが、やはり千葉市に限らずどこでも起きている人口減少というのが気になっています。私は外国語大学で働いているので、林委員が仰ったように、外国人にもっと政治に参加していただくことや、外国ルーツの小学校、中学校の生徒に対する学習支援などが盛り込まれているといいなど、皆さんの話を聞きながら感じていました。

和田委員

どこの章に入るかわかりませんが、長期的な計画ですので、いつ誰が見てもわかるような標語・アピール、例えば「みんな輝く都市と自然がおりなす千葉市」や「私から未来へつなぐ街づくり」がこれに当たると思いますが、これが何時どこを開いても標語が出てくるように、もっとアピールできると良いと思えます。

例えば、私が思っている「誰もが楽しく暮らせるまちづくり」なんていうのがあるのか分かりませんが、そういう一言で分かるような、そういう標語づくりも真剣に考えてもらいたいと思えます。

轟会長

こういう計画になると、どうしても文字がずらっと、小さな字が並ぶということになりますので、分かりやすさは非常に重要なことだと思います。

標語と申しますか、目指すものに関しては第4章になるのですが、第1章から3章においてもできるだけキャッチーというか、見出しというものをしっかりと、分かりやすいものとして出していくべきではないかなと思いつつ聞いておりました。

菊地委員

第3章自体は第4章以降の具体的な政策の原型となる現状分析が書かれていると認識しておりますが、今までの議論で委員からお話がありました、東京近郊の関東圏の中での千葉市の話ですが、人口減少あるいは、人口の局面をどうしていくのかの話と同時に、人口の質をどのように確保していくかということが重要だと思います。

産業面を見ますと生産年齢人口をどうするのかというのが出てくると思えます。

もしかしたら取れないのかも知れませんが、総論19頁の図、あるいは20頁の図からは、人のカウントや流れのみで、どういう人が転入し、また、転出しているのかという情報が、見えにくいかなと思っております。

例えば、千葉市から流山市に人口が流出していますが、流山市は、「母になるなら流山市」を掲げ、子供を育てる場というのがそこにはあると、そういう想像をしてみると転出している人が何となくイメージができると思えます。

あるいは、2040年問題、東京において介護がピークになる中で、現状でも介護を求めて東京圏から千葉県に住居を移すという動きが実際にある。

そういった、どのような人の動きがあるのか、これをもう少し分析して計画に記載

することで、産業政策では資本集約の作業をするのに役立ち、千葉市に通勤するということであれば、そういった知識を持った人々を都市計画として千葉市にもって来るといった、都市計画的な発想の議論につなげていくことができる。

このように見てみますと、もう少し、この第3章の人の動きが、どんな人が動いて、どういう人が留まっているのか、実は、自治体の中でライフステージを変えながら転居を繰り返す、街を住みこなす、というような議論がありまして、ライフステージが変わってもライフステージごとに、例えば、住宅、あるいはその土地、街の空間を楽しむ、そういった人々の質の面での分析をされると、次回以降の議論に役立つのではと思います。

鏑木委員

先ほど夢につながるという観点でのご意見に感銘を受けたのですが、この中であまり教育について語られている部分がないかなと思いますので、千葉市の特性の中に教育の面も何か取り入れていただけたら良いと感じます。

千葉市教育委員会の方針であるとか、部門とか、夢のあるものについて発展していけば、若い方々がその教育を受けるために千葉市に集まる、ということも非常に大事ではないか、そこからまた、産業が伸びる、あるいは、そこに住み続けるなど、そういう面で広がりが出てくるのではないかと感じました。

下河原委員

効率性や生産性ばかりを追い求めていく政策にしてしまうと、教育や、これから高齢化が更に進んでいく中で、介護の真の価値が見えにくくなってくると思います。

多くの政治家や納税者はコストしか見ない傾向があるので、国や市が豊かになればなるほど、教員や介護士にお金をかけるべきだということに気づいていないところがあります。

彼らへの投資、増額を逆行や報酬ばかり高くするという見方ではなく、国や市が豊かになった証しだと捉え、生産性や効率性ばかりを追い求めるのではなくて、教育改革を政策として掲げていくと、すごく豊かな市の計画になるのではないかと感じました。

轟会長

教育や福祉などの豊かさ、経済以外のものに関しても、ご意見を聴くと、SDGsの中には当然含まれていますが、千葉市の現状等には若干抜けている気がします。

人口という中で、定住人口が主に書かれています。今コロナ禍でインバウンドが大変落ち込んでいますが、今後、人口減少の中でのインバウンドと言われる、いわゆる交流人口をしっかりと受け入れていくということの戦略が必要かなと思います。そのため、是非、交流人口の、特にインバウンドについてのデータを取り入れて示していただければと思います。

堺総合政策部長

非常に多様で貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。

石河委員からいただきました生産年齢人口から始まりまして、人口の質の分析や具体的な部分に関する記述について、もう少し工夫の余地があると思っております。

これまでの人口統計の分析を行う上で、全体としてどういう動きが見られるのかは継続的にやっているところですが、その後のこととして何を示すのかを考えてまいりたいと思います。

これに関連して、コンパクトというご意見がありましたが、コンパクトというと、千葉市だけが人口を抱え込めれば良いというのではなくて、東京、首都圏の中で、本市の以東以南など周辺地域に住んでいただいて、千葉市に働きに来ていただくとか、あるいは、遊びに来ていただくことを含めて、広域的な流動の中で、広いエリアでの

活性化が重要と思っておりますので、そういう趣旨の下で我々も検討していきたいと思っております。

また、渡邊委員のご指摘にありました、SDGsに関連しての千葉市らしさということについて、SDGsに関しては特に広い範囲にわたって書かれており対象範囲が大きい中で、一般的な書きぶりになっておりますが、検討できるところは検討してまいります。

次に、夢あるいはフレーズのところで、我々は、今回は可能な限りポジティブな表現で特性を前面に出してという考えで進んでまいりましたが、ご意見をお聴きするとまだまだであるということを感じております。

また、森川委員からご指摘いただきましたアジャイルについて、これから10年という計画の中で、そこをどう柔軟にやっていくかということにつきまして、今回は議論の対象範囲になっていませんが、第5章で計画の進行管理や評価について記載しております。そこで、従前はPDCAサイクルという言葉を使っておりましたが、今回はあえて外してあります。

それは、基本計画そのものということではございませんが、事業、スローガンの中で短期的に見直していくということも視野に入れて表現しておりますので、伝わりにくい部分はあるかと思いますが、課題意識はございます。

あと、効率性、生産性追求ばかりではいけないということについては、そのとおりであると思っており、我々も同じ認識で市民の暮らしを守っていく、そして、教育の場で次世代を担う人材育成にも力を入れていくというところは、随所に散りばめています。

ただ、やはりパッと見たところ、その辺のスタンスが伝わらないというところは、課題として感じたところです。

## 議題（5）その他

（事務局）今後の開催スケジュール・議事録の確定方法等について、事務局より説明を行った。

特に意見なし。

—閉会—